



# 株式会社〇〇に関する 知財ビジネス評価書

---

2019/00/00

評価機関〇〇  
担当弁理士:





1. エグゼクティブサマリー
2. 基礎資料
  - ① 対象企業概要
  - ② 業績・事業計画
  - ③ 技術・製品の概要
  - ④ 保有知財の概要
  - ⑤ 市場・競合企業の概要
3. 事業性評価
  - ① 市場性評価
  - ② 競合優位性評価(技術・ビジネスモデル等)
  - ③ 知財評価
    - i. 定性的評価
    - ii. 経済的価値評価
4. 総合評価・課題



# 1. エグゼクティブサマリー

## 市場性評価

1・2・3・4・5

- 対象とする市場は、……の2つ。
- ……の消費量は堅調に伸びているがしては……拡大するとは言い難い。
- ただし、……については、海外での……が増加しており、海外需要の高まりが見込める。

### 市場性評価の コメント

## 競争優位性評価

1・2・3・4・5

- 他の事業者に比べて、……としている。
- 高品質・高級志向というポジション
- ただし、……においては……との点においては競争の……が
- また、……の面でも優位性がある。

### 競争との差別化ポイント、優位性に関するコメント

## 知財評価

1・2・3・4・5

- 特に……に関して強固な特許権を
- ……に関する特許権の経済的価値
- なお、……

### 知財の経済的価値と、評価コメント

## 事業計画グラフ等

## 総合評価と課題

1・2・3・4・5

- 市場への対応という
- 競争事業者に対する
- また、当該差別化ポ
- なお、……。

### 総合的な事業性評価と、今後の課題に関するコメント



---

## 2. 基礎資料





## 2. 1. 対象企業概要

---

社名	
本社住所	
会社創立	
資本金	
代表者	
社員数	
主な事業	
主な仕入先	
主な売上先	

企業名、資本金、従業員数、事業  
内容、  
仕入先、販売先、沿革等



## 2. 2. 業績・事業計画

---



過去の業績推移と、  
将来の事業計画





## 2. 3. 技術・製品の概要

---

- 主な事業は……。①……と、②……の2種類に大別される。
- 売り上げベースで、……。売上単価は……。
- ……は、……などが主な対象となる。
- ……。
- 他の……業者に比べて、……して取り扱うこと  
一方、……が技術的に難しく、……に技術的特徴がある。
- また、……な点においても強みを有する。

基本的なビジネスモデル、  
製品の概要、  
技術の特徴等

ある





## 2. 4. 保有知財の概要

〇〇件の特許出願(うち、権利存続は〇件)と、〇件の実用新案出願(うち、権利存続は〇件)。

保有する知財(特許・商標等)のリストと、  
各知財の概要

No.	出願番号	公報番号	発明の名称	出願日(遡)	生死情報
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					







## 2. 4. 保有知財の概要(代表特許の概要)

---

発明の名称:...

出願日:平成 年 月 日、登録日:平成 年 月 日

期間満了予定日:平成 年 月 日(残存期間:約 年 か月)

■ 【発明の概要】

...

■ 【権利範囲】

...

■ 【評価】

...



代表特許の概要



## 2. 4. 保有知財の概要(特許分析)

---



競合企業や技術分野内における  
特許の分析  
(件数推移や分類別のグラフなど)





## 2. 5. 市場・競合企業の概要

---

①……について

- .....。
- .....。

②について

- .....。
- .....。

市場の動向や、競合企業の概要





---

### 3. 事業性評価





## 3. 1. 市場性評価

---

市場規模と、その成長見通し等に  
基づいた  
市場性の評価

市場性評価

1・2・3・4・5

5段階評価

※1:市場規模・成長性共に非常に乏しい、2:市場規模・成長性共に乏しい、3:一定程度の市場規模と成長が見込まれる、4:大きな市場規模と成長が見込まれる、5:非常に大きな市場規模と成長が見込まれる



## 3. 2. 競合企業優位性評価



競合企業と比較した技術・ビジネスモデルの違い  
自社の強み・弱み等に基づいた  
競合優位性の評価

競合優位性評価 1・2・3・4・5

### 5段階評価

※1:競合との優位性無し、2:競合との優位性に乏しい、3:競合との差別化ポイントがある、4:競合との明確な優位性がある、5:競合に真似できない強い優位性がある



### 3. 3. 1. 知財の定性評価



保有する知財が事業をカバーできているか、漏れが無いのか、強い特許か、製品は特許を活かしているか、といった定性的評価

知財評価

1・2・3・4・5

5段階評価

※1:知財が無い、2:必要な事業が知財でカバーできていない、3:ある程度の範囲が知財でカバーされている、4:必要な事業が知財でカバーされている、5:強い知財で事業全体がカバーされている





### 3. 3. 2. 知財の経済的価値評価

存続中の〇件の特許権を対象として、免除ロイヤリティ法により、評価を行う。

#### 【前提】

- ✓ ……で、今後の事業が継続するものとする。
- ✓ 存続中の特許権は、…をカバーするものとする。
- ✓ 技術のライフサイクルを加味して、今後…年間を
- ✓ ロイヤリティ率は、…を加味して〇%とする。
- ✓ 割引率は、…を加味して、…とする。

免除ロイヤリティ法・DCF法等による、  
知財の経済的価値評価

売上(百万円)										
ライセンス対象										
ロイヤリティ										
税引き後										
現価係数										
現在価値										

知財価値: ……(百万円)





## 4. 総合評価・課題

---



これまでの基本データ・評価を踏まえた、  
技術開発、事業、知財に関する課題

